

ハワイ群島とカリフォルニア (下)

— 歴史、産業、軍事、交通の概況 —

H T 生

大東亞戰爭開始以前に米國の軍事專家の一部では、日米一度戦はば僅々數ヶ月を出ないで日本を屈服せしむることが出来る、と云ふ意見を眞剣に吐露してゐた當局要衝に

居る軍事者もあつた。然るにかゝる謬見は我軍の緒戦に於ける壓倒的な勝利にも拘らず、最近まで未だ米國朝野の指導的輿論をなしてゐたのは事實である。其後米國一般國民は東亞に於ける敗戦の事實が次第々々に知るに至つて、米國政府の戰爭政策に對する國民の批判は漸く峻烈となるに及び、ル大統領を始め米國政府首脳部も遂に我國の強大なる實力を公認せざるを得なくなつたのみならず、これを逆に利用して國內態勢の強化宣傳に用ひ始めたことも顯著なる事實である。

前駐日米大使のグールが這般日米外交官交換に依つて歸米したが、彼れが歸米發表したところを外電が傳へてゐるが、これを見ても彼は日本軍の殊に優秀性と實力の強大なることを縷々と指摘して、從來米國の對日認識の結果が如何に誤つてゐたかを卒直に云つてゐる。勿論吾々は彼が眞摯且つ卒直に彼自身の日本觀を吐露したといふよりは、寧ろ米國政府の民衆指導方針に多分にその步調を合せた、米國國內政策の一種の宣傳と思はれるが、他面這般來からの

米國國內政策の一種の宣傳と思はれるが、他面這般來からの

米國の敗戦並に日米兩國の國內態勢の實相に照して、彼の米國民に對する警告は米國政府及び米國民の對日樂觀氣分に對する項門の一針となつたことは否定出來ないと思はれるのである。日米交渉に當つて我國は誠意と條理を盡して以て對米折衝にも拘らず、終始威嚇と恫喝を以て我に臨んで遂に日米交渉を決裂ならしめた米國政府の責任ある政治家連は云ふに及ばず、ルーズベルト政權の專斷と蒙昧とその好戰的性情とは今更ながら呆然たるの感がある。

回記すれば米國當局は對日觀を全然誤つて、日本の如きは一撃の下に屈服すべしと豪語して、米國海軍は彼の所謂輪形陣戰法……即ち航空母艦を中心に巡洋艦、驅逐艦等をもつて航母集團突撃隊を編成して以て、その大航續力と高速度を利用して後方並に側面を脅威し又は牽制して、或は航通路を衝いてその輸送船を破壊し、更に海岸線をも却掠する。かくて日本の主力艦隊を各方面に分散せしめて置いてその虚に乗じて主力艦隊が輪形陣をもつて堂々と進撃する。これが米國が第一次世界大戰以後に於て考案したる新

海軍戰術であつた。

而して米國は日米戰爭に於て始めてこの輪形陣戰法を應用せんとしたのであつた。然るに米國はこの新戰術の應用に際して一大頓挫を來したのである。即ち開戦早々米國の主力艦隊は米國對日作戰の最も要衝の根據地である布哇眞珠灣内において日本海軍の奇襲作戰によつて殲滅されたがために、その航母艦集團突撃法は全然企圖することが出来なくなり、全く獨立したる行動を採るの外なく従つて一種のゲリラ戰術に出でざるを得ない状態となつて仕舞つたのである。

其後米國政府は前記のやうにブラット提督構想の輪形陣を作ることが出来なくなつたのであるが、併乍ら國論に刺戟されてハワイ眞珠灣港の復舊工事に狂奔中も、またもや我が荒鷲はその重要箇所を爆破したのである。全體米國の日本に對する攻撃は全然海軍力による外に途なく、而してその攻撃作戰の根據地は即ちハワイの眞珠灣港である。これは少くとも日本に關する限りハワイは米國にとつては大

切の要衝である。更ればこの布哇について觀ると、ハワイと云ふところは俗に布哇八島と呼ばれて太平洋の眞中に八個の島から成り立つてゐる群島である。米國は太平洋に於ける最大の海軍根據地眞珠軍港までの距離は横濱から三千三百七十九哩、米國のサンペドロ、サンディゴ軍港から二千百哩、パナマ運河からは四千六百八十五哩、ビニューゼット、サウンド軍港からは二千四百十九哩、桑港よりは千九百九十七哩、前記したアリニューシャン列島（前號に詳記）のダツチハーバーからは二千二百八十九哩、濠洲のシドニーよりは二千三百三十六哩のところにあつて、その行政組織は米國ワシントン中央政府の直轄に屬する Territory 縣であり、人口は約三十八萬を擁して、そのうち我が同胞は約十六萬人に達してゐた。

而してオアフ島はハワイ群島中の丁度中央に位して、ハワイ中では最も發展した島である。その面積は丁度我國の近畿地方にある淡路島に比較するが、主都ホノルルは從來日米通商文化の交衝地であつて、現在は布哇縣廳の所在地

である。人口は約十二萬を算へて、その内邦人同胞は三四萬人程居住し其他は異人種が十數種雜居してゐる有様である。或る人種學者の布哇視察記に依ると

公園や海岸などで遊んでゐる子供たちを詳細に見ると一人の兒童に數くとも七八種の血が通つた混血兒が頗る多いか日本人の子供の中には割合に混血兒は少ないのである。それは日本人は土着人や白人連との間に雜婚をすることの少ないことを示すのであるが、然しその半面においては、それだけ日本人は米國人から排斥を受けまた虐待されてゐる證據でもある。

と、云つてゐる。今度の國難で日本の海軍が眞先に攻撃爆破した、彼の眞珠灣と巨大なる米國の軍事施設も亦このオアフ島にある。一體この常々問題になる眞珠灣は主都ホノルル市街に隣つて南面してゐるが、東西北の三方面は嶮岨なる山に包まれた所謂堅固なる要塞であつて、實に米國が太平洋……遠く亞細亞に驕足を延ばすために巨費を投じて作つた米國海軍の根據地である。而して眞珠灣の中央に

は軍用飛行場を有して、この灣を東眞珠灣と西眞珠灣の二つに分けてゐるが、眞珠灣の沿岸一帯は全部軍事施設である。即ち海軍駐屯所を始めガソリンタンクの如きも五十七本もここに設けられてあり、また、これに續くスコフキール飛行場は主として米國陸軍の根據地となつてゐる。その兵舎、軍用格納庫、強力なる受信機、無線電信受信所など軍事施設は實に用意周到なものである。而してこの島の交通状態を見ると、鐵道は主都ホノルルから大體眞珠灣の沿岸を宇廻して西部海岸づたいにワイフネニ、カエナ岬、カワイヤパイ村、モクレイカ村を経て北海岸に向つてワイメイから北端であるカフク岬の無線電信架空線、並にカフク砂糖工場附近を通ふてカハラに達して居るが、その距離は約十五六哩に過ぎないのである。道路は米國式の道路で却々克く發達してゐる。殊にホノルルの市街道路や眞珠街から各軍事施設に聯絡する道路等は實に立派なるもので、全部改良工事を施し街路樹を以てして、道路の下水設備も完備してゐる。殊に軍事的目標を以て建設したる道路である

から、ワイフネエからモクレイア村までの間は、まだ未完成ではあるが、全島周圍の海岸線は自動車時速四十キロ位出してはなすき完成道路である。殊に眞珠灣軍港街からキババの絶壁を貫きスコフキール空軍根據地陸軍兵舎に通じて更に北海岸の島巡り。街道に接續する路線の如きは我國の主幹道路に比較して何等の遜色がない程である。又、ホノルルからヌアヌの溪谷道路の如きは。この路線もまた島巡り道路に北東海岸で連結してゐるが、この溪谷は海拔千二百七呎のヌアヌ・パリーの峻嶮なる山岳の溪谷を縫ふての一大難工事であつたと想像されるのである。克くもかゝる峻嶮の山々の間……溪谷の一大難工事を成功したものであると、何人も驚く程である。要するにハワイ群島中の主島オアフ島の道路は周圍を廻る所謂島巡り街道と、これに結び付く中央道路とでも云つたやうな前記二本の道路が主たるものである。更に道路についても一つ附言して置のは、ワイカカラの一部絶壁に副ふて狩獵道路と名付けらるゝ狩獵場の山脈の間を曲折回する所謂狩獵に主とし

て利用される一種獨得の専門道路のあることは確かに何事も金を投ずるに何等意とせぬ米國人氣質の一つの現はれであるとの感じがする。

オアフ島の殖産興業は主として砂糖及びバイン・アップルにあるが、彼のスコフキノル陸軍練兵場に續く一帯の高地は一般に砂糖及びバイン・アップルの産地であると共に同島はその産額と品質の優秀とでは世界第一であると稱せられてゐる。又島内には到るところ蔗糖耕地とバイン・アップル耕地がある。更に相當大規模の製糖工場バイン・アップル工場もあり、また養牛牧場、羊牧場等も相當に發達して居り、バター牛酪等の工場もある。更に水田耕作試験所、ハワイ大學、クイカ工業學校等も設立されてゐるが、何んと云つても砂糖とバイン・アップルは本島生産品の大祖である。而してこれ等の輸送及び島内の交通關係は鐵道よりは寧ろ自動車による道路を多分利用されてゐることは大である。

元來布哇島の歴史を概観すると、ハワイ王朝の祖である

カメカメハ第一世が丁度現在から百數十年以前にこの島を南方の島から攻め立ててその先住民族をヌアヌ・バリー海抜千二百七呎のこの峻嶮なる山頂から敵を突き落して國內を平定したので、従つてヌアヌ・バリーはこの國の古蹟の一つになつて居つて、その山頂の絶壁には銅板に刻んだ記念碑が貼り付けられてある位である。而してカメカメハ第一世の七代の孫に當るカラカワ王は今から六十年程以前に日本に來て……親しく明治大帝に拜謁を賜はり、秘かに日本の屬國ならんことを希望した由であるが、この王は不幸にも歸國後間もなく病死したので、當時英國の植民政策に續いで米國が頻りに太平洋政策に没頭して居たので、遂に米國の屬領となつたのである。これ等の經緯を詳細に書いてある、現にホルル市外のビショップ博物館にはハワイ王朝以來の歴代の遺物が陳列してあるが、建國の歴史は極く短かいものである。またこの國について面白い話がある。夫れは、デエモン公園の設立者であるサン・デエモンは日露戦争の時日本が勝つか、露西亞が勝つかに付いて米

人は競うて露國が勝つと豫想して賭金を露西亞に賭けたのであつたが、この人だけは必ず日本が勝つと云つて日本の勝利を主張して日本に賭けたのである。果してその通り日本が勝つたので戦争成金で賭金百萬弗を儲けたので、俄に日本最良となつて、この賭金の全部を提供して、土地を買

收し公園を造り、その中に日本建築の住宅を造つたのである、この人の死後もそのまま保存されており、又現在の主人デエモンは先代の子息であるか、この公園の直ぐ近所に住んでゐる。主都ホノルルに續く海岸傳ひに立派な鋪裝文明道路が海岸傳ひに布設されてゐるが、これに隨つて行くとな有名なる海水浴場であるワイキキに行くか、こゝは米國陸軍の駐屯隊隊もあり、公園、水族館、博物館、劇場等の所在地でこれまで太平洋航路の寄港者か必ず見物したところである。又ダイアモンド岬はワイキキ海岸の出鼻であつて、有效なる燈臺と無電架空線上を有してゐるが、舊噴火口を利用する砲臺はトチカ障地として防備を嚴重にしてゐたのである。このダイアモンド岬から北部海岸傳ひにナ

ナクリに到る方向はミドウエイ・ラハイナ水道など所謂航路に面する關係上海岸線の屈曲もなく、ホノルル、眞珠灣等と比較すればやゝ低下して、カナカエ人、ポルトガル人、フキリツピン人等の部落が多いところである。

亦加哇島はハワイ群島中でもその廣さは第四位であつて面積約五百五十五平方哩、ホノルルより北方九十哩のところにあるが、人口は約四萬人を擁し土地肥沃で主産物はやはり砂糖とバイン・アップルである。主都ホノルルとの交通は毎日飛行機と汽船との便に依つてゐるが、飛行機では僅かに一時間で達するのである。このカウアイ島の東南即ちホノルル、眞珠灣の方向には海岸線は最もよく發達して西北ミッドウエイに對する關係上米國海軍の寄港地が多くエリレ、ラワイ、ナキリキリ、ワイルア、ケアリヤ等は悉く海軍の演習碇泊地であり、又ラハイナ水道を擁して眞珠灣を護るに要害なる土地である。北岸のアナホラ、モロア、ピラ等の海水浴場の部落には先住民の住宅もあつて、彼等男子は海岸の岩石の上に例の布哇ギターを奏し、女はフラ

ダンスを踊つてゐる。この邊に住む先住民はカナカ民族の一部であつて、一般に精神力は弱く音楽を好む人種である。道路は全島の東南北海岸線に稍々副つて建設されてゐる。而してオフア島の如くではないが、やはり米國式で相當改良された道路であり、亦マカエリから山岳地帯に入るオロケリ間道も出來て居る。パイン・アツプル鐘話工場やバナナ、蔗糖、米作耕地やメネフネ養魚場なども隨所にある。又布哇の水産業は沿岸に多少は發達してゐるが全體としてはやはり主産物は砂糖とパイン・アツプルである。これらの産物は貨物自動車に依つて海岸の港に運ばれてホノルルから米國に輸出されてゐる。ハワイは曩に米國軍部が對日渡洋作戰に於ける最大の根據地である。然るに今や太平洋上に驕慢なる星條旗の姿が没するの日は來たのである。即ち印度洋上には遠く前記したマダガスカルの奇襲に呼應して行はれた東太平洋作戰は、曩にミッドウェイに残存敵艦を屠り米國艦隊の機動を奪ひ、更にこれも前記したやうに北方アリューシャン列島に出撃して夏と共に北から日本を

うかゞはんとする米國の野望を破推し去つた雄渾無比の作戰は敗戦米國の苦惱を雄辯に物語ると共に米國が唯一の頼みとする布哇群島もまた風前の燈たるを免かれないのである。

最近日本の海軍は米本土を初空襲してオレゴン州に焼夷彈を見舞ふたとブエノスアイレス發外電は、桑港からの來電を傳へて來たが、日本機の米本土初空襲は西部沿岸諸州の住民に一大衝動を與へ米國當局は沿岸防備の強化に遅蒔きながら大重となつてゐる模様である。現にオレゴン州の防衛調整官たるジェロルド・オーウエンは。

日本機の米本土初空襲は米西部諸州住民に大なる衝動を與へた。小型水上機一機が少くとも一個の焼夷彈をオレゴン州西南沿岸地帯に投下して火災を生ぜしめたが、今回の空襲は小規模のものであつた。併しこれにつゞいて新しい攻撃が西部沿岸諸州に加へられることを覺悟せねばならない。

云々と云つてゐるが、米國西部沿岸中でも布哇と密接な

る關係を持つオレゴン州の直ぐ隣にあるカリフォルニア州は日米英戦争に至大の關係を持ち、結局米國本土では眞先に攻撃さるゝところとして恐怖の的となつてゐるところである。更れば茲にカリフォルニア州の交通其他について検討して見ると、同州はハワイ、ホノルルにこれまで寄港してゐた太平洋横斷の汽船は横濱港から十三日間五千五百四十五哩である。直行でも四千七百九十一哩にあるが、かやうな遙かなる海洋にまで日本の雷艇は活躍を續けて以て多數の米國汽船を沈没せしめ、或は直接米本土に砲彈を打込んだのには米國民は如何に驚愕したかは推察するに餘りがある。全體カリフォルニア州はサンキスト、サニイサイド、そんな形容詞に呼ばれてゐる米國の穀倉であつて、これを築きあげた功勞者は日本の移民である。戦前のカリフォルニアはまさに地上の樂土であつて、溫度は華氏の六十度から七十度の間を往來し雨量少く、澄みきつた大空のもとにオレンヂ、メロン、林檎、葡萄を多量に産し、またレタス、アスパラガス、花甘藍、玉葱、馬鈴薯、アーテチョークは

一望無限の畑に溢れて、更にミルク、クリーム、バター、チーズはこれ亦多量に生産されてゐる。

カリフォルニア州の面積は日本内地と略ぼ同様の廣さであるが、人口は丁度東京と大阪の兩都市の人口を合せただけのものが、北加州は桑港を中心に、中加州はフレスノスタクソンを中心に、南加州はロサンゼルスを中心に集中して、住民は即ち食足り又休養足つて、楽しい生活が出来て居つたのであつた。然るに今日の加州はルーズヴェルトやノックスを始め米國擧げての對日絶對勝利論が彼のハワイ眞珠灣の緒戦以來の連續敗戦の結果、忽ち馬脚を現はしたが、夫れが多分に神經をとがらしてキング新作戦部長又はニミツ新太平洋艦隊司令長官の自重論乃至は防備第一主義が取つて代つて大勢を支配してゐる。こゝに加州の防備力を外電に依つて推察すると、桑港は人口約六十三萬程あつて、南北約百十二キロ、東西約十六キロ、サンフランシスコ灣の入口を扼する半島の尖端にありて、灣東のオークランド、バークレイ、アラメダ等の各都市を合して百萬の大

都市を形成してゐる。桑港灣口の一帯狭いところは僅に二キロにして、灣内水深く南半は商港であり又北半のサンパブロ灣は軍港として、彼の有名なるメアアイランド海軍區となつてゐる。兎に角米國の太平洋沿岸防備の中心である。

こゝには全米二十八箇所の海軍造船所のうちでも最優秀の設備を誇る工廠があつて、彼の大西洋岸のヴァージニア州のノーフォーク軍港と並ぶ二大軍港である。又海軍航空隊としてはフロリダ州ペンサコラ若くはノーフォーク、南加州のサンジェゴと共に知られたる一大據點である。また陸軍では第九軍管區司令部がこゝにあつて、桑港灣口を眼下に見下す市の西北端に當るところにあるフレシデオ兵營の要塞砲は對岸のサウサリト尖端要塞砲と共に灣口を嚴重に監視してゐる。又市の西南にオーシャンバーク兵營あり更に六十キロの南方サンタクルーズ灣にあるモントレイ兵營と共に北カリフォルニア沿岸の防備を固めてゐる。次にロサンゼルスは南カリフォルニアの中心であつて、人口は約百五十萬を算し陸軍航空隊の外大した防備力はないとこ

るである。その地形は頗る平坦で軍事的意義が少ないので、専ら外港たるサンベドロと更にその南方百七十キロのサンジェゴに頼つてゐる有様である。而してサンベドロは西方サンベドロ丘を背後にロサンゼルス河口にあつて、灣内は水深く従つて艦隊の補給港としての役目を果たすに十分である。戦前ではこの港は郵船の寄港地でもあり、又灣内のタミナル島には邦人漁師街として特異の風景を描き出してゐたが、現在では既にその全部は退去せられてゐる有様である。こゝは南加州の油田地帯を控へた重要港であるだけに、従つて防衛には米國は相當の意を用ひてゐることであると想はれる。

カリフォルニアのサンジェゴは南米メキシコに最も接近したる陸海の要地である。港内は廣範にして且つ深水であるから大艦隊は悠々と入港することが出来るのみならず、海軍航空隊、海軍講習所等を有して、例のパナマ運河を通つて北上する艦隊の第一の補給地である。加ふに前記した布哇のホノルル軍港と連絡する航空據點でもある。戦前に

於て戰闘機爆撃機の連合大編隊がハワイ、ホノルルとこのサンジエゴ軍港間を夜間十七時間に飛んだ記録を残してゐるが、恐らくは現在では尙ほ短縮されたことと思はれるのである。轉じてカリフォルニア州の防備力としても、また礦産物としても第一に擧ぐべきものは石油の生産である。

即ちペーカースフィールドからロングビーチ、サンジエゴの一帶に亙る南カリフォルニア地方は米國二大石油地帯であると共に多量に生産して、これ等の大油田は頗る豊富なる燃料を供給してゐる。而してこれと關聯してハイウエイ即ち國道は頗る驚くべき發達をなしてゐる。カリフォルニア州の北及び中央部から南へくと更に沿岸へと南北に通ずる所謂パシフィック、ハイウエイ、シエラネウグ山脈と太平洋沿岸山系との間を貫徹する所謂ミドランドハイウエイの如き、また山間部に通ずるナショナルパークハイウエイの大幹線道路は實に立派なる路線であるが、その外に州内に四通八達する坦々たる大道は一度事があればそのまゝに於て飛行機の滑走路となつて、加州の大原野と共に隨

所々に自由自在なる飛行基地が出現出來得るやうになつてゐる。併乍らこれら實に改良された立派なる道路……交通路は加州のうちに相互に相通ずるには便利であり、從つて道路に依る物資運輸も亦多大にその偉力を發揮することには遺憾がないと思はるゝが、州外の背後地には加境界の山脈に阻まれて未だしの感がある。鐵道に至つては、加州の鐵道はサウ、サンパシフィック、サンタフェウエスタンの、パシフィック等の各鐵道會社線も東西に通ずることは薄くして僅かに三線のみであるのと共に、道路の完備と自動車の發達に影響を蒙つて車道も軌道も共に古色蒼然たる状態であるから大した輸送力も期し難いのである。

全體このカリフォルニア州と云ふところは、米國は今から九十五年前にメキシコを騙して僅かなる金を以て買取つたと云へばよいが、實は奪取したところである。この豊饒の大開墾地……サンオーキンの一大平原、これを開拓して現在の如き農産物を豊富に生産するやうになつたのは五十年この方幾多の同胞の血と汗とを絞りとつて出來上り、ま

た肥つた土地である。これを思ふと誠に感慨無量である。今や米國はこれまでに於て最も力を入れたのが航空機であり、亦これを以て世界第一と誇つて列國から恐れられてゐたのであつた。故に彼等は絶対制空權の下に決戦を呼號してゐたのである。然るに今や太平洋上米國航空の有力なるものは悉く根こそぎ覆滅されて仕舞ひ、彼等の所謂制空權は絶対に實現されないことになつたのである。現在では太平洋上には前記した布哇は尙米國の手に残つては居るが、ミッドウェイの潰滅でこのハワイも安全なる根據地とはなり得ない有様である。日本は全く太平洋上に絶対不敗の態勢を築き上げたのである。今後は益々殘存主力の撃滅に向つて最も有效なる作戦を進めることは出來得ることゝなつたのである。更れば太平洋上わが建設の邪魔をするものは殆んど無くなつたが、ハワイは勿論一舉に米洲沿岸たるカリフォルニア、オレゴン^{OREGON}の兩州も亦危険に瀕するに至つたのである。狼狽する米國民の焦慮を思ふと同時に、苦悶する敵の陣營を見れば笑止千萬である。嘗ては太平洋上に星

條旗をなびかして驕慢の限りを盡した彼等ヤンキーも亦、思へば如何に感ずるか……。茲に日米英戰に今後益々至大の關係を有する布哇加州の交通産業防備等の大略を記して以て此稿を終了することにする。

九月二十三日記

伊藤左千夫

生きてあらん命の道に迷ひつゝ

偽るすらも人は許さず

長塚節

時雨れ來るけはひ遙かなり焚きすてし

落葉の灰はかたまりぬべし

齋藤茂吉

ものゝ行きとゞまらぬやも山峽の

杉のたいばくの寒さのひびき